夕刊
磐城新聞
十二月十六日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅五錢）
廣告料 普通廣告 金六拾錢 五號十二字詰一行 金九拾錢（場所指定一行一圓）
編輯印刷兼發行人 柏木 磐城國石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合名會社
登錄受信略號（タイラワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
日曜祭日翌日休刊

保險界の最尖端を往く
近き將來に全國民の被保險者に

簡易保險局書記 西丸富夫

（2）

今後尚引續いて增加し、其の存在が一層明確になることゝ思ふが云ふ迄もなく簡易保險は現在の貯蓄力と將來の貯蓄とを代表するものであつて、現在の貯蓄心と將來の貯蓄心とを兼ね表はす所の生命保險が發達してゆく國にあらざれば、眞實の國家的發達は期待し得ないではないかと思ふ。殊に我が簡易保險の遠大なる目標は國家經濟を理想環境に置くことであり、又當面の目的としては國民各自の生活を安定に導くことで、所謂『相互扶助』『共存共榮』の理想を其の精神とし、多數團結の力に據つて、生存並に死亡に伴ふ不幸を、相扶け、相救ひ、人類の恒久的福祉を計るのが其の目的であり、時代精神が要求し、社會が要求し、個人が要求する。つまり必然的絶對的に必要なものであり、民族と其の國家とを永遠に保持するためには必要缺くべからざる所のものである

斯くの如く簡易保險は自助の制度であり、又最も近代的な相互救助の制度であると共に社會政策上他の制度に比して最も優越せる地位を有するものと云はねばならぬ

故に現下の經濟的難局に際しては、特に『全國民を被保險者に』との大抱負を擔い勅語にある『擧國一致』『共存共榮』を文字通り實踐せねばならぬのがこの事業である。即ち事業の根本精神であるところの共存共榮の思想を國民一般に扶植し國民をして其の精神が現時約せしむる事に目標を置かねばならぬのが即ちこの事業である

故に下層階級のみならず有力なる中產階級以上の人の自覺と理智の發達がこの保險事業の健全な進步に重大なる關係を持つてゐるのである。故に國民に何んと云へども社會の一員として自ら重きに任じ社會の進步と發達に就ては各其の責任を分擔し得ると云ふ精神の下に、協力と調和を基調として共同生活を遂げ、個人盡す大なる覺悟がなくてはならぬ

この自覺心を有する人々を以て組織された社會は緊張し充實し健全なる進步、發展を遂げるのであつて、之が眞の意味の德義心であり、文明人の義務である

將來に於ける國民の經濟生活は年を逐ふて複雜となると共に、世界經濟の沈衰に伴つて一層の緊張を要するものと認めねばならぬ

故に全國民は上述の理を善く體得し、滿腔の熱と愛とを傾注して『全國民被保險者に』といふ簡易保險の理想を遂げせしめ、全國民をして安心立命の域に進め簡易保險のパラダイスを現出する事に努められんことを要望して止まぬ。（完）

磐新歌壇

小山田滋選

無名氏

ふしんの人等集りゐるならん霜夜を赤く焚火燃え居り

○夜仕事のわが手の冷えは霜深きことを思はしむ更けにけるかな

○住みなれし隣の友のうつりゆき今宵冷たき時雨あめ降る

潮聲硯靜抄帳

十一月集 赤羽松堂選

雜詠 當季

秋深し銀杏黃葉の野寺かな 逸郎
朝寒やうす日さしたる杉木立
冬されや目立ちて紅き茨の實
もえさかる暖爐に足を組みにけり 武門
藁仕事上り框に向ふむき
屋根裏の見ゆる山家や藁布團
遠近の山暮れいそぐ時雨かな 秀勝
海鳴りを遠く聞く夜の時雨かな
短日の曇れるまゝに灯りけり 晩霞
枯桐のすく〳〵ならぶ冬の空

新門と女房

柳町陽二

（二）

使者の歸つた後の新門一家は親分辰五郎の病床をとり圍んだ一同の者はそれ〴〵の物案じから堅い沈默を守つて妙に沈んだ陰氣な時を過してゐた。誰の心にも男を飾るこの最後の舞臺でもろくも倒れた新門の不運やら如何に時よとは言ひながら、昨日に變る將軍家の不幸やらを悲しみ嘆く思が一杯であつた。わけて永年連れ添ふ女房は、其の悲嘆の中からもどうにかして將軍家の難儀を救ひ、辰五郎の男を立てさす爲めに唯一つ親分を病床から起たしたかつた。

これはどうでも親分がやらなけりやならない仕事なんだが……と言つて其の病氣ではね――勿体ないのは將軍樣だよ、今迄のおべつかた名はみんな敵になり、今はたつた一人ぼつちさ、その一人ぼつちの中でたつた一人賴りにした親分がこんななんだから將軍樣もよつぽど御不運と言ふものさね、だが考へて見りや將軍樣ばかりぢやない、親分だつて隨分不幸さ、今まで命をかけての御奉公もこれですつかり水の泡になつちやつた。まさか世間業では親分がこれ程の病氣をわづらつてるとは思ふまいから、あれ見ろ新門の辰五郎は景氣のいゝ時ァ將軍樣とか何だとか言つてても將軍樣が落ち目になりや、官軍のお咎め恐ろしさに寢返りを打つた將軍樣の御恩を忘れた犬だよと言はれても返す言葉もありやしない、わたしアそればつかりが口惜しいんだよ、同じ思ひの一同は針を刺される樣な胸の痛みを感じて默つてうつ向いてゐた

――それにね。

女房は持つて生れた勝氣をさらけ出して言つた。

――親分の命は一橋樣時代からの預りもんだよ、將軍樣にしたつて、まさかの時に役立てようと思へばこそ御ひいき下さつたらうに……そのまさかの時になつてこんな強突張りの病氣なんだからね――

愚痴にも似た女房の言葉にも、辰五郎も返す言葉がなかつた。

社會の今日

12月17日

△惣目付を置く大目付の始（寬永一〇）△露國鮮銀浦鹽支店の閉鎖を命令す（昭和五）△金兌換停止を公布す（同六）

○

剛柔相推し、而して變化生ず 周易

湯上りを剪る足の爪伸び出れり、長くもわれは冬を籠りし 佐治斗牛

講談

幕末神風組

（79）

土生太郎作
高根秀浩畫

殺陣往來（二）

佐吉は、眼の前に展開された光景に思はずも身体をのり出した。

佐吉の眼に映じたは何か其處には憎んでも尙憎み足りぬ御木本九平太の偉丈夫な姿であつた

物好きな、そして氣丈な江戶ッ子の人垣にさへぎられてすぐ見えなくなつたが、それはまぎれもない御木本である

佐吉は腰の手拭ひでひよいと顏を包むと人垣の後へ立つた

『さ、それへ直れッ！どうしても勘辯はならん』

多少、酒氣を帶びてでもゐるやうな九平太の怒聲が四邊に割れ鐘のやうに響き渡る

『ど、どうぞ、どうぞ、御了見なすつて……決して惡氣があつてやつた譯ではありません』

町人風の若者はしきりに詫び立てゝゐるが一向にその利き目はない

『いや、ならん。惡氣があらうと無からうと、結果は皆一つぢや、乃公は貴樣をぶつた斬ればそれでよいのぢや』

『そ、そ、そりや、あんまり非道だ、何もこれしきの事で……それはあんまり』

『いや、ならん』

『と云つて、わたしが此處で殺された日にや年老いたお袋がどんなに嘆くか知れません。どうか、お慈悲に今度の事はお見逃しなすつておくんなさい』

『駄目だ、乃公の氣の濟むまではな』

『ではわたしに出來る事ならどんな事でも致します、どうかお助けなすつて……』

『うむ、それはタッタ一つぢや』

御木本は人が惡さうに若者の顏を見据ゑ乍ら靜かにいふ

『タッタ一つ、それは貴樣の命を貰ふことぢや』

『あッ！それぢや……』

恐怖におびえ切つた若者は地を這ふやうに後ずさりする

と、其時である

『やい！三びん、餘り無慈悲な事をしやあがるない』

叫ぶ聲が人垣の中から起つた

『ナニッ！』

と御木本がその方に氣をとられたその僅かな隙、ぶッと土煙りがあがつたと思ふと脫兎のやうに若者は人垣につきさゝつて行つた

『エイッ！』

間髮を入れず御木本の氣合が四邊に響き渡つた。同時に若者の身体はもろくも其處に打ち倒れてしまつた

御木本の投げた得意の棒に足をさらはれたのだ

『馬鹿なッ！逃げようたつて逃しはせんぞ！』

その哄笑が無氣味に若者をおひやかす

が、反つてそれは群衆の反感を買つた。一つには、何んとなく太々しい面魂から來る御木本の惡い印象がさうさせるのであつたが、それよりも、何んの手出しも出來ぬ、哀れな町人の立場に同情する人々の氣持がさうさせたのであつた

御木本はさうした氣配を十分に察知した。そして分れば分るほど彼の心は猛り立つて行くのであつた

『さあ！此處へ直れッ！一刀兩斷だ。見物の手合もよく見ておけよ！人を斬るのはかうして斬るのだ！』

御木本は場所柄をも忘れた。さながら亂心者のやうに、彼の手にはサッ！と銀蛇が躍つた。

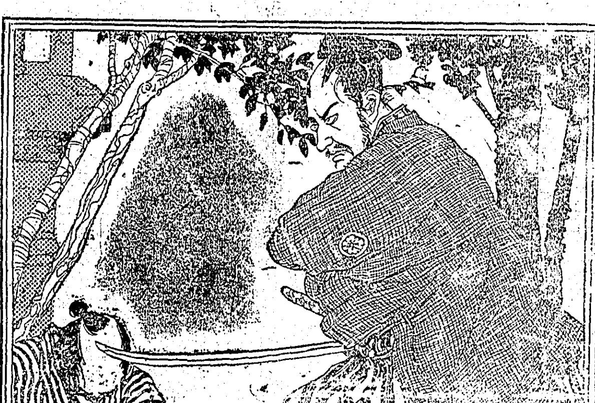
『やあ、拔いたぞ！』

人垣がどよめいた。とその折、

『神前をけがす不所存者』

何者かゞ叫んだ。その聲は御木本の氣勢をそぐのに十分の効果があつた。一旦振りかぶつた、大刀が力なく下げられてしまつた

それを見た見物人は、手を叩いて喜んだ



美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

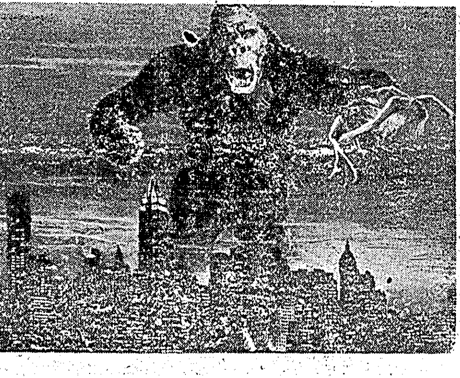
お正月が近づきました
ビクターマシンス
特選レコードと優秀蓄音器
番出し
特約店 金光堂時計店

來ル 十七日 十八日 二日間（午前九時ヨリ午後五時マデ）
場所 平町四丁目 マルトモホール
織元直賣
京呉服 製造元問屋の 市價半額大廉賣 御正札の三割引ニテ
メチヤ〳〵の大安賣
御素人樣も 御商人樣も 是非御來場
特別奉仕品
午前九時 晒一反 二十五錢
午後一時 ネル腰卷 十錢
（各五百反限）
萬一賣切ノ節……御斷リ
製造 問屋 京都物產合資會社

景氣は良く成つた
此處に三十圓か、五十圓位の小資本にて、每月五十圓から百圓以上の利益の擧る絶對に損をしない、確實有利な、而も年中無休にて至極高尙な營業があり。來りて實地に就き說明を求められよ時は今、活躍の時季躊躇して悔を後世に殘す勿れ、進步向上、奮鬪の士は早速來れ、人員に限りあり
姓名在社

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
『入院のお需めに應ず』
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
內郷村高坂磐炭病院前

短期公開 十四日ヨリ『四日間』 毎日晝夜二回開演
キング・コング
全發聲 オール・トーキー
二十世紀最大の驚異特作映畫
邦畫 洋畫 平館



忘年會 新年會
◈萬事御希望に副ふやう勉强して御奉仕致します
◈御通知下されば當方から御相談に參上仕ります
平町紺屋町
住吉屋本店
電話一五九番

日本に唯一つ
魂の這入つた
東京工場聯盟の自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。橋際

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

眼科專門
院長 醫學士 吉田安
吉田久
吉田眼科病院
平町紺屋町 電六八

一家の皆殺しを企て 未遂の儘其筋へ自首

今曉赤井村の情痴地獄

水戸市外常磐村大字石の下生れ好間村上好間小田炭鑛坑夫小川五郎方寺門次郎(二九)は今十六日午前一時半頃赤井村大字品川鍋下農遠藤留治方土藏下に罐入り爆藥を裝置點火一家鏖殺を企てたが土臺裏板及家具類を破損したのみで死傷は無く寺門は今曉四時平署に自首した

妻の裏切りが因

彼が爆藥に點火する迄

一家全滅の恐るべき計劃を決行した寺門は四年前留治妹遠藤ミヨ(二六)と結婚三人の子供まで出來たがミヨは最近同郷に情夫を持ち去る十月二十八日實家に戻つた儘歸らなかつたのを怨みこの擧に出でたものだがその折にミヨは赤井村福島炭鑛に居る妹の下に行つて留守で母親セキ(五三)次男力(一六)三男力雄(一四)長女たか子(一二)孫淸子(一〇)の六名が臥寢中であつたと

爆藥は高坂から　爆破に使用したダイナマイトに就いては目下取調べ中であるが大体內郷村高坂方面より出たものらしいと

現場に急行

平署で取調開始　平署川島司法主任及安藤刑事部長以下は直に現場に急行一先づ午前九時歸廳、川島司法主任は直に寺門の嚴重取調べを開始した

植田署落成式

明十七日盛大に擧行

植田警察署新築落成祝賀會は既報の如く明十七日午前十時から擧行さるゝが新廳舍は工費一萬圓を地元六千圓縣が四千圓をそれ〴〵負擔し植田舊小學校跡に同町請負師成瀨組が請負ひ去八月十六日着工し去る十日總建坪百四十坪の鐵網コンクリート人造洗ひ出しの廳舍を完成十二日檢查の上引渡しを了し翌十三日移轉するに至つたものである

建物は二階建で階下は事務室、署長室、應接室、控所看護室(宿直室)、小使室、刑事室、留置場三室で階上は司法室、高等室、調室、日本間、會議室等に分れ更に屋上展望臺もあり屋外には理想的な演武場が接續されてゐる

來賓を歡迎

協贊會を組織　關係町村當局並に消防組が中心となり協贊會を組織植田町長古川傳一氏を會長、消防組頭坂本龜太郎氏副會長、錦村組頭山崎登氏外數氏が幹事として來賓の歡迎に萬遺漏なきを期し且この喜を記念すべく今や全く準備が整つた、尙植田武德分會では同演武場開きの意味から武道大會を催し平署から草刈、鈴木兩部長が出場の筈

後藤檢事正來郡　福島地方裁判所後藤檢事正は植田署竣功式に出席のため今十六日午後六時二十二分來平今夜は植田綠館に一泊すると

昭和八年の回顧

（七月の卷續き）

(二十五日)中等校野球決勝戰磐中福中に敗る。平局の菅野君は日光で心中　(二十六日)十三才の手長小僧矢吹の山口福藏平署に檢擧。四倉海岸に大龜　(二十七日)玉川の小松德松格鬪して賊を補ふ。赤坂龜次郎翁後嗣の弔ひ合戰に出馬を決意。好間の贋肉屋檢擧さる。贋免狀の江名の還ちやん平署に　(二十八日)泉の佐藤長久氏一家六名の軍人を出して銀盃を下賜さる　(三十日)縣下女子中等校陸上競技並に庭球大會に磐女庭球首位、競技は四位。川中子の鈴木正道(一九)肺を苦にして鐵道自殺。判檢異動、西判事、淸田檢事平に　(三十一日)自轉車專門の少年箕輪の鈴木次郎三十餘臺を盜み平署に

（八月の卷）

(一日)各學校夏休み。ラヂオ体操會第一日第一ト第三校で。湯本で朝顏品評會。全國中等校野球東北豫選第一日磐中遠野軍を屠る。片倉の女工重子みよし(二三)新舞子で自殺未遂　(二日)磐中盛岡中に敗る。磐女同窓會夏季總集會。赤井の坑夫宮城重太郎酒の上で相手を斬り檢擧。四家又一氏綴局長就任　(三日)双葉大久村で部落拂下げの山林を村名義に還元を營林署に陳情　(五日)谷屋の番頭山野陽治(二六)熱海で鐵道往生　(六日)慈雨坪當り五斗餘、夏井川六尺增水本社主催太田水穗氏講演會。縣議戰愈々風雲急、各派遊說始まる。長橋の芳賀正安(二八)失業を苦にして公園で縊死　(七日)女給を弄んだ上抱主に謝金を迫り菓子屋鈴木豐次郎(四〇)平署に告訴さる。馬の爲め野崎の自動車轉覆、鈴木鹿島村長負傷。歸宅を促され亂暴魚屋鈴木豐藏(四二)平署に告訴さる　(八日)噓八百の巧な手附金詐欺を働き千葉生れ白井德藏(三六)平署に　平區判檢事著任　(十日)平區長會議。磐女同窓會出席四名。仙臺鑛山監督局好間小田炭鑛の婦女入坑及深夜業禁止實施、就て調査。小名濱の自動車鰹を滿載川に墜つ　(十一日)不治の病を苦に！伊達の男瀧田七郎(二四)新舞子をぶらつく。開花の千花一芝居うつて抱主から告訴さる(十二日)久本の玉子逃走失敗　(十三日)遠來郡山名紡對古河對高月戰に名紡共に敗る。平の點呼終了。植田で產業組合職員會發會式　(十四日)病身の菓子屋四倉の長谷川長太郎(四九)鐵道往生。勿來の大平武(三三)棍棒で毆り殺し送檢。縣議戰審判の日　(十五日)インチキ塗り替えの名人內郷の宮本信次(四九)送檢。縣議戰草野氏捷つ

宏遠の理想を掲げ 舌端熱火を吐く

二十日の平商雄辯會

延期となつて居た平商の辯論部大會は來る二十日午前十一時頃から同校講堂に催されるが當日は音樂部合同盛況を豫想されてゐる、選手演題次の如し

『冒險家たれ』一年皆川正己『守れ極東の平和』一年小澤幸三『慘中及人道』一年松島精『未定』二年磯野長一『時局に目覺よ』二年鹽澤友一『噴火山上の世界』三年根本健三『我が殉國の精神』三年岡田彥太郎『靑い鳥』五年諏訪次郎『純正なる若人の意氣』五年山田正直『落葉によせて』五年門馬敏治『未定』五年山家正『未定』五年關場重一郎

屋根上に水

小名濱竹町の火防組申合せ

小名濱町字竹町下組では此程火防組を設けたが組員は各自屋上に滿水のバケツを備へ毎日數回幹部が巡回し前記規約の設備がなかつた場合には罰金として一圓を徵收、これを積み立て將來町內數ヶ所に水槽を設置する事になつた

潮聲俳句會

明宵木兎莊で開催

地方の俳句同好者より成る潮聲會の忘年會は明十七日午後五時から平町田町高久病院木兎莊にて開催するが席上東日、東朝、報知の賞牌爭奪即吟がある

平町戰死傷者人名回答

平町役場では其筋からの照會により日淸戰役以後(今次事變關係者を除く)の戰死者及傷痍軍人を調査した處戰死者は南町陸軍步兵大尉村上利喜造氏外十二名、傷痍軍人は南町軍曹岩本重雄氏外七名と判明其旨回答した

負債平均八百圓

虐げられた地方農村

郡農會の調査に係る郡下一萬四千戸の農家負債は神谷村五百圓、平窪の七百圓を最低として鹿島、玉川、勿來に至つては一戸平均千三百圓乃至千五百圓、平均八百圓で郡下三十四ヶ町村の總額は實に千百二十三萬圓と云ふ巨額に上つて居り近來各方面に負擔整理組合設置の聲が頻りに叫ばれ昨十五日平第三小學校で開いた農村負擔整理協議會に於ても各町村長を始め出席八十餘名で質問の續出に大塚農村主事もその熱心に感じたと

道路改修陳情　澤渡三坂組合村ではさきに村內道路の改修補助工事を陳情中であつたが昨十五日再び田子村長より促進の陳情書を出した

植田 小濱修港進行

難工酬らるゝ日近し

總工費三萬二千圓二ヶ年繼續事業とし去る五月着工した植田町小濱築港工事は目下六分通り進行したが同海岸は荒海の爲豐間のそれの如く浚渫工事も暇止め方法にするを得ず毎日十數名の人夫により潛水作業中である。岸壁工事も來る廿日頃出來上るので直に防波堤二十米の延長工事に着手竣工は明春二月頃であると

前澤組に落札　平第二校庭十七坪擴張及校門移轉工事の入札は今十六日町役場で執行百九十八圓で平町前澤文太郎氏に落札した

平町受講訓導　來る二十四日より五日間東京高等師範學校に於て開催せられる冬期講習會に出席する平關係左の如し

古川、中川(第一)、荒忍(第二)、新家(第三)各訓導

一夜講習で試膽會

今晩平窪公民校の試み

平窪公民學校では今十六日午後六時から同村安養寺に於て一夜講習會を開き住職鈴木應壽師の講話があり同十一時からは諏訪神社で試膽會を行ふと

新川改修豫算

平、內郷、飯野一町二ヶ村惡水豫防組合では今十六日午前十時から町會議室に於て議員會を開き明年度新川改修工事の豫算編成に就き協議した

年賀狀展覽會　第二校圖畫部では海野、橋本、渡邊各訓導指導の下に來る二十七、八の兩日同校講堂に於て兒童作製の懸賞年賀狀(繪葉書圖案)展覽會を催すと

駒木根前玉川村長 執行猶豫

けふ平支部の判決

玉川村長駒木根忠三氏に係る事件の判決言渡しは今十六日午前九時から平支部で中島裁判長係り關口、香西兩判事陪席、三堀檢事關與門傳、千葉、武田、松野尾各辯護士立合ひで求刑一年六ヶ月に對し一年二ヶ月三年間執行猶豫の判決あつた控訴するらしい

公香卵分讓　茨城縣水產試驗場では同場產公魚卵の分讓に就いて左記により平町役場にその斡旋方を依賴して來た

△經費—五十萬粒未滿一萬粒に付十八錢、百萬粒未滿十六錢、百萬粒以上十三錢、外運賃荷造

△荷造—孵化枠三十板(一箱百二十萬粒)

△申込—來る二十日迄、運搬は二月中

阿部博士招待

平驛　鐵道從業員の修養講演に今十六日來平の經濟學博士阿部賢一氏の爲講演前午後四時半より六時半迄マルトモホールに於て大森勇、山崎淸三、猪狩庄平三氏發起の晩餐會を開くが會費八十錢である

靑沼町長出席　靑沼町長は來年一月廿四、五の兩日東京で開かれる全國町村長會に出席する

狂人は泣き笑ふ

留置所に展開された 笑へぬ師走點景

湯本の色きちがひ佐藤長吉(三七)クンが『綺麗なお方にやわながある──』で怒鳴り散らした上臭氣芬々の排泄物で散々係員を手古摺らした處へ之も女性ホルモンを持て餘す伊達郡生れの岡山まり子(一九)さんが出現、昨十五日家人に引渡した處『歸るんなア嫌やだア』と駄々を揑ねて再び平署の四號留置所へ──慌しい年の瀨を物語る頃日の留置場風景ではあるが再た復た長谷川健一(五〇)なる物騷男が飛込んで來た同人は久保町で雜貨商を營んで居るが多少精神に異狀を呈し昨日午後二時頃から平町八幡小路方面を軒並に訪れて金品を强要『出さねば火をつけるゾ』と燃やさかる薪を振り廻し檢束されても『警視總監は俺の友達だ、俺を知らねえか』とばかり齒切れ鮮かな大啖呵。これも同じく第三號室へ──で現在の平署留置所はこれら誤念入りなお客でコソ泥、賭博の橫行する師走に當つて大入滿員の盛況？ホト〳〵弱り切つて居ると

第三學力調査　平第三校では明後十八日學年擔任交換の上普通授業、算術、讀方、雜問の學力調查を行ふと

六犯男に七年求刑

江名町大字上神白字大澤二七當時住所不定前科六犯丹野梅次郎(三八)が去る三月四日午前一時頃大浦村大字上仁井田字岸九一農岡田源太郎方軒下にあつた野菜籠二ケ(價格一圓)同家鷄舍から鷄二十羽(價格二十圓)を竊取逃走、同午前六時湯本町大字水野谷字諏訪ケ崎鷄商馬上榮治方に至り小名濱町酒井太一と詐稱し竊取した鷄を七圓で賣却した外八件の竊盜事件の公判は今十六日午前十時四十分より平區で香西判事係り淸田檢事關與開廷されたが檢事は懲役七年を求刑、判決は明後十八日であると

潛り桂庵にお灸　內郷村大字宮字子代七〇日雇業大島庄左エ門(四六)は昨年十月頃から今年十月二十四日に掛け前後六回に亘り千葉縣東飾葛郡八幡村三咲一七三小宮恒方外四ケ所に大槻みさを外五名を女中、小僧等に紹介し手數料として雇主から合計八十二圓餘を受け十三日香西判事より營利職業紹介事業取締規則違反で罰金四十圓を言渡された

四倉通信

巡回無料診察　縣衞生課田村技師の巡回無料診察は昨十五日四倉警察署內に於て施行されたが受診者五十餘名であつた

セメント奉迎　第二師團長宮には二十三日四倉町磐城セメント會社を御視察遊ばさるる御豫定なので同社では目下夫々準備中である

自轉車泥檢擧　四倉町字新町古河酒店に一昨十四日二十四、五位な勞働者風の男が自轉車一臺(價格三十圓)を買ひ度いと申込んだのを四倉署員が擧動不審と睨み連行取調べの結果錦村生れ蛭田政一(三五)で去月中まで小野田炭鑛に勤め去月廿三日湯本驛前柳內自轉車店より自轉車を盜取し來た事自白、尙餘罪ある見込で取調べ中

吏員ボーナス　四倉町役場吏員のボーナスは大体四五割の見當で來る廿六、七日頃支給せらるゝであらう

大浦消防檢閱　大浦消防組檢閱は來る十七日午前九時より同村小學校庭に於て施行の筈、四倉消防組では昨十五日各部一齊に組頭外幹部出動竈の檢查を行つた

密獵　內郷村大字高坂字立野五七磐炭雜役夫小山源一郎(三五)は昨年八月十五日內郷及び山田村に於てダイナマイト十ケ工業用雷管七ケを所持し同十六日舟木七郎外三名と共同山田村上遠野村地內鮫川で右ダイナマイトに點火雜魚約三貫價格四圓を捕獲十三日香西判事より銃砲火藥取締法施行規則違反並び漁業法違反で罰金三十圓を言渡された

怠慢　湯本町辰の口五五古物商小林熊太郎(六六)は去八月中三回に亘つて同字三四飛知和敏雄方から古銅線約百匁を買受け制規の帳簿に所定の記載を爲さず十四日香西判事より罰金五圓、同町寶海二一古物商遠藤軍春(三〇)は認可なく店舖に於て去八月二十日不詳の者から大工道具の古物合計三十二點(價格四圓)を買受け十二日香西判事から罰金三圓を言渡された

過傷　內郷村大字綴字秋山三四自動車運轉手小野伸藏(二六)に係る過失傷害事件判決言渡しは今十六日午前十時から平區に關口判事係り三堀檢事關與開廷罰金四十圓を言渡された

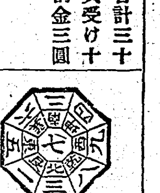
夜這　川前村大字川前字椚立一五六自動運轉手永山幸一(三三)は去月二十三日午前一時頃田村郡夏井村北田原井吉田喜藏方に淫行の目的で忍入り住居侵入罪で十三日中島判事より罰金二十圓を言渡された

傷害　小名濱町小屋の內一〇漁夫松二郎事石川松治郎(三三)は去る九月一日同字小松サタ方に於て海元不二松と口論の末有合せたコップ二ケを投げつけ不二松の前顱頂部に全治一週間を要する打撲傷を負はせ十三日關口判事より科料十圓を言渡された

賭博　湯本町上町八十二無職中野與一(三二)は去る九月二十二日頃同町三函地內秋葉神社境內で同町蛭田具衞外四名と花札を使用して六百間と稱する賭博をなし十五日香西判事より罰金三十圓を言渡された

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切丁寧……料金は極めて低廉です
姙產婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話（呼）六五二）
上原家政婦會
會主　產婆　上原通子



新曆十二月十七日　日曜
舊十一月一日　丁巳　大安　執　房宿

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　舊狀を守りて積極的に出でざるが安全とす▲二黑の人　諸事通達すべき幸運日開店起業普請雇用吉▲三碧の人　兎角物事の滿足を得ざる日長上に謀るが吉▲四綠の人　萬事行詰りとなりて策の施し樣なし病注意▲五黃の人　活動の自由過ぎて手落ちを生ずる事ある日▲六白の人　運勢良好にで光明の輝く如し決斷に可なり▲七赤の人　自分より不運の人ありと思ひて自省すべし▲八白の人　氣運益良化して招かずとも吉福一家に滿つ▲九紫の人　勇氣に任せて事を荒立つ可らず定業は繁昌

新曆十二月十八日　月曜
舊十一月三日　戊午　赤口　破　心宿

▲一白の人　幸運には惡まるゝも華美驕しやは慎しむべし▲二黑の人　辛抱かひの現はるゝ日盜難遺失病氣は注意▲三碧の人　衰運なるを輕視して七顚八倒の苦しみを招く▲四綠の人　焦り過ぎて失策を生ず短慮を戒め安全なり▲五黃の人　出ろくひは打たる目上目下の融和を肝要とす▲六白の人　思惑定めなき日大事を起さればとがは免かる▲七赤の人　發達の途開けて利益を產み出すべき幸運日▲八白の人　緊張味豐かに精力を注ぎ萬事を處すれば吉▲九紫の人　損害を誘發する日他念なく常業に從ふが吉